

令和6年度「IRビジネスセミナー」(第2回) 質疑応答要旨

(質問者1)

日本の場合、スポーツというと競技スポーツが中心かなと思うんですが、例えば、競輪、競馬、競艇みたいなものも、海外の基準でいけばスポーツになるんじゃないかと、もう既にエンターテイメントとしても完成されてるんじゃないかなというふうに思うんですけれども、そういうものをスポーツというのは認められてないということでしょうか。

(回答：講師)

考え方によると思うのですが、私の場合は、競輪はオリンピック競技ですよ、もう競輪という日本語がオリンピック競技になっています。私の中でスポーツを定義するとき、相手、ルール、審判がいればもうスポーツ競技です。相手、ルール、審判の三つを皆さんも頭の中で浮かべてください。相手、ルール、審判がいればスポーツなのです、スポーツの定義としては、私の中ではその三つが揃うならばスポーツになるので、質問された競技はスポーツとなります。例えば、草サッカーとか、将棋とか、僕と誰かが将棋を指してるだけだったらこれは遊びです。公式試合で決着をつける場合には審判が必要です。将棋士がやっているのは、制限時間が決まって将棋を指してますよね。ルールをお互いに共有して試合をしていますよね。真剣勝負していますよね。ああいうのはスポーツなんです。そのスポーツの定義があるので、そのスポーツから反するか反さないかっていうところにあると思います。

あと歴史的に言いますと、スポーツも、もうオリンピックの頃から新聞でも全部資料で残ってるんですけど、必ず賭ける人っているんですよ。その辺も含めてのゲーム性っていうのはあるので、その権利がどうかっていうことではなく、もう完全に今の三つが揃った時点でスポーツとしては定義を完了しているところがございますっていう意見です。スポーツですっていうことを言いたいです。

(質問者2)

私は先週、高野山に行かしてもらって、そして今日は昼間に大阪駅とかもあって、外国のお客様がだいぶ増えてるという感じがあるんですけども、カジノとかIR始めた頃に比べてだいぶ外国の方が来て、最初の頃は中国とかどうのこうのあるんですけど、先生から見てスポーツツーリズムを進めるんだったら、外国語を勉強したかったら、これは最低限、語学的に覚えてた方がいいですねと思われるのがあったら教えていただきたいんですけど。

(回答：講師)

間違いなく英語が一番使えます。英語が一番いいんじゃないかなっていうのは思います。今は携帯のアプリ入れたらもうそのままやってくれるので、それで話すのが上手くコミュニケーション取れると思うんですよ。アプリ使うのが実は一番得策なんじゃないかなと思いますね。

あと、一言かけてあげるっていうのは、一番大事なことなんですよ。実は日本人当然シャイなんであんまり声かけないっていうのがあるんですけど、特に山登りなんて絶対挨拶するじゃないですか、お互いに覚えておくために、あれで日本語で声かけてくれるだけでも、私が聞いている外国の人たちからの話だとそれでも嬉しいんです。日本語でおはようございますとかこんにちわって言うだけで嬉しい、

山登ってるときに日本語で言われるのが嬉しいっていうんで、逆に日本語で声かけてから何か困ってるのかなって言って、アプリとかで英語にしてあげたりした方が向こうにとっては嬉しいかもしれないですね。そっちのほうが満足度高いんですよ。

(質問者2)

東南アジアの人達と話すときも英語でしょうか。

(回答：講師)

授業でやっていますから。日本が一番実はTOEICとか点数低かったりして知識低いですからね。

(質問者3)

先ほどスポーツ庁が出てまして、スタジアムが52作って、アリーナ体育館36と言われてましたけども、今は少子化が進んでる中で、それが対応できるのか、あとはもう一つちょっと疑問を感じてるのはやっぱり育成っていうのはすごく大事だと思うんですよ。それが対応できるか、もしくは、もうクラブチームを増やさなかったらちょっとできへんのちがうかなと思って、その辺ちょっとわかる範囲で教えてほしいです。

(回答：講師)

まず、少子化が進んでる中で見るスポーツの方が活性化されてるっていうのが一つ言えると思うんですよ。僕らの世代が見に行くっていうところでコミュニティを作るっていうのがある。あと、スタジアムの中が防災拠点になってるっていうのが一応言い訳としてはありますね。有事における避難拠点となっています。

どこかで地震があったとき、スタジアムって一番耐震とか強く作ってるんで、逃げ込めばいいんですよ。日本がもし孤立しても、48時間以内ならば世界のどこかの国がヘリコプターで助けに来てくれます。スタジアムならばヘリコプターが着陸できます。防災拠点として必要だっていうのが一つあります。確かにクラブチームも増えてきてるのでクラブチームが指導を強くすると、あと部活動も専門家が入っているんで両方の方向性が必要ですね。普段するスポーツがどうしても無くなってきているので日常的に、体育で無理矢理やらすのは授業でやっていますからね。それ以外でどういう形で遊びとして運動をさせるのかっていうのは大事ですね。見に行くと、そこにあるキックターゲットでも何でもいいんですけど、そういうものから習慣化していく方向を狙うっていう方が、まだ現実的にみんなの足が向くのかな、本当に大学なんか特にそうなんですけど、関心のない子は本当にスポーツに関心ないですからね。もう体育も嫌いなんですから。だって嫌いだって言われちゃったらもうどうしようもないですもんね。無理矢理やらすことができない、そんな時代になりました。教えてる側としてはちょっと寂しいんですけど。

(質問者4)

IRと、それからスポーツっていう今日は文脈でしたので、私実は万博の仕事をしてまして、万博があってIRということで、場所的にもIR隣接してる、スポーツ舞洲っていうことで、万博を起点にして展開していくっていうのがやっぱ効率いいと思うんですね。

その中で万博において、今IRとスポーツっていうことで、それぞれにでも結構ですし、連携してっていうことで、そのイベント、催しとか、そういうものを何か企画されているのでしょうか。

(回答：職員)

I Rの方に関しましては、今ちょうど万博の建設工事中なので、具体のソフト部分の取組みについてはこれからというところになりますので、今時点で万博の方と何か直接の連携をイベントとか通じて計画しているというのは、現時点でぱっと思い浮かばないんですけれども、これから建設工事が進んでいって開業間近になってきましたら、そのときはもう万博終わってるかもしれませんが、地域のイベントとかそういったところとも連携して、活動を進めていくというようなことになってくるのかなと思っております。

(質問者5)

I R関係で世界でも色々事例があると思うんですけども、うまくいった話ばかりではないと思うんですが、うまくいかなかった例があれば教えていただきたいです。

(回答：職員)

うまくいかなかった例は把握できておりませんが、日本のI Rは、海外の先行事例などをしっかり見ながら、国の方で法律が制定されて、それに基づいて計画を立てて進めていくこととなっています。直接のご質問に対するお答えというところにはなりませんけれども、そういった海外の事例を見ながら進めていく形となっています。大阪のI Rでは、海外などから、たくさんの観光客に来ていただき、それを日本各地の観光地に送り出すことや、またM I C Eビジネスの展開など、こういったものをしっかり進めながらやっていくこととしています。しっかり計画をつくり、それを実現していくということで、今進めているところでございます。